

1班 多文化共生社会の形成

課題	県が 何をする	誰が	何をする	誰が	何をする
相互理解の不足					
異文化の理解	外国人の孤立感をなくす。日本の文化や生活を理解することも必要。外国人の嫌なことについて、日本人も相互理解をする。				
	インターネットを利用し、日本のルールの説明を各国の言語で行う。	市町	インターネットを利用し、日本のルールの説明を各国の言語で行う。	企業	各国の文化に沿った働き方を考える。
	日本に来ている外国人が、日本の文化を学ぶことはあるが、日本に住んでいる日本人が外国人の文化を学ぶことはほとんどないと思う。なので、日本人が理解していけるツールが必要。	個人	交流しないと文化等細かなことまでは分からない。地域、会社外国人がいたら、積極的に話す。		
	特定のページやアプリに日本の文化と外国の文化の違いについて、エピソードを交え載せる。お互いの国の文化を理解し、お互いの良いところをいうことで自尊心や信頼感が高まる。				
	相互理解が必要。行政の取り組みの情報提供。	個人	言葉を覚える。覚えてもらう。よその国を好きな日本人から知ってもらって好きになる。少しずつ、文化を覚える。		
	各自治会に対し、年1回は行事への参加や当番をやってもらう。必ずペアになるように日本人と一組とする。				
異文化理解、生活環境の充実	外国人県民の知りたいこと、日本の文化、制度の紹介など生活全般に対してHPや窓口を作るとともに支援団体への支援。	企業	税金や国民健康保険など、生活に関わる支援や説明。	地域 NPO	地域や支援団体が、生活全般に関して相談にのったり支援をする。
日本人と外国人とのかわり	その国が好きな日本人もその国の文化の発信に積極的に関わることのできる機会。				
	外国の方も日本人も気軽にいつでも行ける様々な国の人が関わることのできる場所作り。				
文化の相互理解	大学の学食に外国料理のメニューを取り入れるよう検討する。	地域 個人	県内在住の外国人や近所知り合いの外国人から聞いた外国料理に関する情報を提供する。		
外国人県民異文化	-	個人	日本人、外人（お互いに）信頼感を持ち楽しく異文化を勉強する。		
外国人県民と日本人県民の異文化の理解	互いの知識を学べる場の提供。	市町	県を習って、日本人、外国人がお互いに学べる場所を市町に作る。	個人	海外の文化を理解する必要があると考える。
	県は理解してもらうための理由付けをし、県民に分かってもらう。	市町	日本人も外国語を覚えるため、お金も余りかからず言葉を学べるところを作る。	地域	覚えた言葉を使い、周りの外国人とコミュニケーションをとるようにする。
	静岡県下自治体の海外の友好市の情報をまとめる。その友好市の文化の情報を集約して、県下自治体に展開する。	市町	県の取組への協力、市民への情報公開。		
外国人県民と日本人県民の異文化の理解（現状認識不足している。相互理解外必要）	日本の文化を理解する企画を考える。逆に日本人が外国に興味を持ってもらうために、外国のことを知ってもらう企画を考える。	個人	例えば、日本料理の教室を開いて、日本料理の味を知ったり勉強してもらうことによって理解をする。	地域	文化交流イベントを開く。
外国人県民と日本人県民の親しみ	県が教育委員会へ給食にその地域に住む外国人児童の母国料理を学校で出すようにする。	教育委員会	各給食センターへ通達。	地域	子供を通じ親世代の多文化交流、参観会や懇談会など関わる場での話題づくりにもなる。
外国人県民と日本人県民の相互理解	異文化についてのサイトを作成する。（同じ内容を多言語で掲載する）	個人	片言でよいので外国語を勉強する。	地域	地域居住の外国人に出身国の言葉の勉強会を開催してもらう。
現状認識が不足している。	差別体験を記録し収集する。外国人に差別体験を相談してもらう。	市町	差別体験を記録し収集する。外国人に差別体験を相談してもらう。		

1班 多文化共生社会の形成

課題	県が 何をする	誰が	何をする	誰が	何をする
相互理解が不足している	教育の場などで、異文化そのもの以上に「違う」ということを認めて尊重しあう精神性を学ばせていく（外国人に限らないすべてのコミュニケーションに有用）。				
コミュニケーションの不足					
日本語力、コミュニケーション	外国人の日本語をどこまで理解できているかによって、日本語学習を取り入れてもらう。日本語学習ができれば、地域とのコミュニケーションの場を設ける。会場で各国の料理を出して話をするきっかけとする。				
外国人県民と日本人県民のコミュニケーション	多くの人が交流できるようなイベントの開催。（スポーツ、食など）	個人	イベントへの積極的参加。周りの人にも呼びかけを行う。		
	外国人とともに参加できるイベントを行う。 個人が取り組むことへの支援を検討、実施する。	個人	日本人常識の垣根を広げる。外国人常識の垣根を広げ		
外国人県民と日本人県民のコミュニケーション（言葉の壁、コミュニケーションが不足している）	県主催のイベントなどを行う。ボランティアを県で提供し、外国人と日本人が一緒にボランティアをすれば、コミュニケーションが取れるはずである。	企業	通訳ツールが指差しパネル（向こうの言葉で）を企業に導入する。	地域	地域のイベントを開き、外国人にも積極的に参加してもらうようにする。
外国人と日本人県民の親しみ	地域にツールを願います。	市町	子供の学校給食に、他の国の料理を取り入れて、いろんなものを食べてみる。	地域	起震車に乗ってもらって、災害（地震体験）をする。
外国人とのコミュニケーション	各地域を順番に、定期的に、外国人の方々に参加しやすい、無料（又は格安）イベントを実施し、参加をCMなどで告知する。	地域	お祭りや、防災訓練などの町内会で実施する行事を外国人の方々に積極的に参加を呼び掛ける。	企業	企業商品を使用したイベントを実施しその地域に告知する。
コミュニケーション	言葉が分かるようにアイテム（翻訳機バイリンガル）などに対して補助。駆け込み寺的なツールの考案、市町に配布。市に最低一箇所。外国人、日本人が参加できるイベントを主催、企画、団体の支援。	地域	地域の行事などに参加できるよう声をかける。	市町	何か困ったときに相談できる窓口。
コミュニケーション、親しみの醸成	表示物の文字→デザイン記号→漫画化を進めていく。トイレや非常時の避難は文字を読まないでも分かる。	市町	マンホールの絵など。		
コミュニケーションが不足している	ボランティア、イベント等に普段参加する外国人だけでなく、参加しないような人たちが参加しやすい、参加しなければならないと思うようなイベント等を行う。	県	外国人の方が困ったときに頼るツールを作る。実体験を集める。	地域 企業	外国人の方が困ったときに頼るツールを作る。実体験を集める。
	富士登山ツアーのイベント等の運営資金等を援助する。	市町	回覧板や広告等により外国人の積極的参加を促すようなPR活動を行う。		
	いろいろなイベントをたくさん企画する。（スポーツ等の交流企画）	市町	いろいろなイベントをたくさん企画する。（スポーツ等の交流企画）	地域	地域内の外国人を地域内行事に参加してもらう。
コミュニケーションが不足している。どうすれば、外国人住民が地域へ溶け込めるか	市町などの自治体へ、外国人県民へ呼びかけを行ってもらうよう掛け合っていく。（マニュアルや講義など）				
コミュニケーションの不足	地域にコミュニケーションを願うツール。	地域	畑などで野菜作りを一緒にする。マラソン大会などに参加してもらう。	個人	イベントにたくさん出してもらう。双方で挨拶をする。
コミュニケーションのとり方	人々が多文化共生について学ぶことができるような学びの機会を提供する。	地域	日本の方々も、外国人の方々も共に興味が持てるイベントを提供する。海外の家庭料理の料理教室、学校で海外の遊びを行う。		
コミュニケーション不足、異文化理解	各国の文化、宗教、習慣を国別にあらわすパンフレット等を作り配布する（日本人向け）。日本のことについて、外国人に渡すパンフレットも作る。	市町	第二世代の方に日本語や文化の教育に積極的に関わってもらう。	個人	日本語でよいので挨拶を交わす。イベント（祭り、運動会、防災訓練）に誘う。
親しみの醸成	-	市町	給食の献立に外国の家庭料理を入れる。		

1班 多文化共生社会の形成

課題	県が 何をする	誰が	何をする	誰が	何をする
多言語化の推進					
言葉	外国人を対象とした日本語教室（学校）を開設。（すでにあれば）増設拡充。	企業	雇用している外国人対応の相談部署、人を設置、雇用している国の言語のできる人。		
言葉の壁がある	ユニバーサルデザインをさらに分かりやすくする（各国に適應する）、日本人側に各国の情報、外国人の活躍が理解できる冊子を作る。				
	困っている外国人や何とかしてやりたい日本人が「相談できる（電話も可）窓口」を構築する。県は比較的大きな特殊な分野。	市町	同様の身近な分野を担当。	個人	電子辞書を購入して文字会話でもできるようにする。
	コミュニケーションを作るためのツールを県で作る。	市町	その市に住もうと思う方に、市で情報アプリを作ってもらい、その場で入力してもらい使い方を説明する。	地域	困ったこと、わからないこと、すぐ相談にのれる方を置く。
	グーグル翻訳アプリをスマホにダウンロードする。ブラジルはポルトガル語、フィリピンは英語、日本語音声グーグル翻訳アプリでポルトガル語になる。				
	翻訳アプリの作成、端末費用の予算。	市町	コミュニティスペースの設置、端末の設置。気軽に住民が集い、意思疎通が取れる場所作り。		
	外国人や日本人にスマホでアプリを県で認定する。	市町	県が認定したアプリをダウンロードする。		
	標識や広報物に日本語と英語、ポルトガル語等を併記する。（日本人、外国人、双方の言語取得に資する）				
	翻訳アプリケーションを開発、もしくは既存のものを提携して利用し、コミュニケーションツールとして広げる活動をする。				
市町に困ったことを相談できるコーディネーターをおく整備指導。	市町	市町ごとにコーディネーターを置き、町内会に相談員をおく。	町内会	町内会に気軽に相談できる人がいると良い。（相談員を置く）	
広報の多言語化	-	市町	同報無線放送の多言語によるSNS化を実現してほしい。		
第2世代、キーパーソンの育成					
第2世代や子供たちへの支援	就学、就職支援（経済的）親が非正規雇用で、その部分を担っているため。				
橋渡しするひと（第2世代は貴重）	留学生と第2世代との交流の場を作る。	市町	留学生と第2世代との交流の場を作る。		
キーパーソンの育成	マイスター制度みたいなものを作る。資格を与える。（名譽職）				
	キーパーソンを職業化し、良い報酬を与えるようにする。大学で職業を目指すコース人気の職種になるようにする。	地域企業	キーパーソンの働き口をしっかりと確保する。		
	同国人のネットワークを作り、代表者、ボランティア等を組織して市町に公表し、キーパーソンと結びつける道筋作り。				
日常生活の中で橋渡しできる人が少ない日本人と外国人とのかかわり	子供（第2世代）を日本に住み続けたいと思わせる（あるいはその親）。企業の採用などで、奨励金を作るなどしていく。	市町	「ウエルカムパック」を作成し（市町別）総合窓口TELを作成する。困っている外国人とそれを助けられる日本人のマッチングサービス。	NPO	派遣する人を雇って仕事とする。
外国人が困ったときに頼る場所が身近にない	地区くらい小単位での相談場所作り。日本人だけでなく外国人（その地域で多い国の人）の方も相談受付人として要請。（仕事として）	NPO	NPOは、相談場所の運営を行う。	地域個人	〇〇相談所という名称では敷居が高い気がするので、地域住民とのコミュニティーの場をかねてやれると、家以外の居場所作りにもなる。
外国人県民との橋渡しをするキーパーソン	外国人医療通訳者をボランティアではなく、雇うようにすることで、質が上がるのでは。				

1班 多文化共生社会の形成

課題	県が 何をする	誰が	何をする	誰が	何をする
外国人県民との橋渡しをするキーパーソン育成	外国人の方の指導者と支援していく養成研修を多く作る。	市町	言語ボランティアを地域に多く派遣する。		
外国人県民の活躍できる場の創出					
地域で活躍できる	語学ボランティア→就労として通訳の力を発揮。(正規雇用は無理かもしれないが)	企業	商業施設で通訳雇用。アウトレットで外国人がルールを守れないが、日本人スタッフはうまく伝えられない。		
地域で活躍できる場の提供	市役所などで研修登用をする。	地域	お祭りなどで、日本人がサポートしながら、役員の仕事をしてもらう。	NPO	ボランティアを募集する。
	ボランティアを一部PAYに変更する。第二世代の就職支援整備。働ける場の創出(ジョブコーチ)、外国人版養成。低所得者に対する支援や相談。	市町	専門職の創出。地域外国人との橋渡し役になる。		
	-	企業	外国人の受入、ジョブコーチ。マッチング。	地域	外国人同士のボランティアチームを作り、得意なことを生かし、地域に貢献。
外国人県民が活躍できる場	退職者は、外国語ボランティアに登録、留学生は県庁アルバイトで通訳協力者として登録。	市町	自治会役員に金を出す。(役割ではなく仕事として)		
外国人県民が活躍できる場の創出	-	地域	外国人の方は能力、資質を持っていらっしゃるので、外国人が困っているとき、近くに支える日本人がいる仕組みが大事。		
	労働以外の充実(外国人にとって)を促進する。	企業	外国人も日本人と同様に対応する。人種で優劣を付けない。		
	外国人を中心としたスポーツクラブの結成支援。 住みやすい気候を生かした高齢者施設を作って雇用を創出する。	企業	国籍を理由に採用を拒否しない。		
外国人県民が活躍できる場の創出 (地域で活躍できる場の提供、外国人が働ける場の創出)	静岡での通訳をしてもらう(それぞれの国)。労働をアシストしてあげる。県でも職を斡旋する。	地域	防災訓練などに参加してもらう。	企業	外国人でも働ける環境を作る。言葉が分かりやすいパンフレットを作成する。
外国人の方々が活躍できる場の提供	地域の企業が、外国人の方々を雇用する機会をつくるように促す。	企業	外国の方々を長い目で見て丁寧な指導を行う。		
退職後も住み続けてもらう	労働の一線を退いた外国人を外国人向けツアーのガイドとして養成する。(もちろん仕事として)。県がツアー客や修学旅行生を誘致することで、静岡への観光客増加にもつながり静岡のアピールになる。定住者向けの年金のような制度があるか分からないが、それが無い状況の中で、退職後2-30年住み続けるのは難しい。そんな人たちを有効に活用でき県のメリットも大きいのでは。日本に何年も住んでいけば、日本語もできるようになっているし、静岡暦が長いなら、外国人が母国の人に行ってほしい静岡の地も紹介できるはず。				
どうすれば外国人県民が地域に溶け込めるか	誰でも参加できる、特に子供が楽しめる、食のイベントを企画し市町をサポート。(ブラジル料理、ベトナム料理等)	市町	イベントを主催、実施する。		
外国人県民の生活環境の充実					
地域で住みやすい環境の提供	公園や無料施設の設置を整備する。	地域	町内会などで、地域に生まれた外国人の方の自己紹介の場を設けて、すみやすくしてあげる。	個人	挨拶や料理などのおすそ分けをして、少しずつ仲良くなるようにする。
外国人県民の生活環境の充実	経済面を豊かに、学力お金、非正社員を正社員にして、子どもが大学に進学できる。				
	今回のような県が実施する施策レビューに外国人枠を設けて県政に関する議論に積極的に参加してもらう。	レビュー参加者	県内在住の外国人にこうした行事があるということをSNSや知人友人を通して伝える。		

1班 多文化共生社会の形成

課題	県が 何をする	誰が	何をする	誰が	何をする
外国人県民の生活環境の充実	県内外国人の求めているものが何なのか。正しい事業(施策)の取り組み方を的確にする。	個人	外国人の不便なところがあったら手助けをする。		
	住みやすい環境の提供、物価が高いので自給自足ができるようなところを提供したらよいと思う(畑など)。子供が静岡県で働いてもらえるように、生活面でサポートする。				
	外国人が分かりやすいように多くの言葉のパンフレットや看板を作る。	地域	その外国人のお隣が周り(近所)の方が積極的ににかかわりを持つようにする。	市町	県と同じように外国人にも分かりやすいパンフレットを作成する。
	(施策調査)P27の調査については、外部機関に依頼したものを。これを持って施策を云々してはいけない。県庁職員が足を運んで確認したいところを回ってほしい。生の姿が見えてくる。地域差が大きく影響していることがわかったため、どのように現場に入るか。この調査だけは、自分たちでもう一度実施してほしい。				
外国人県民の生活環境の提供	外国語ボランティアの要請に予算を傾倒させる。日本人側の理解者を増やす近道。				
生活環境の充実	防犯に対する施策。				
	地方に外国人お助けセンターが不足することがないように管理する。	個人	外国の方の生活を充実させるためには、地域の人々の交友が大切である。挨拶、簡単な会話をし、お互いの心が開けるよう努める。		
生活環境の充実、住みやすい環境の提	外国人向け、メンタルヘルス対策、ストレスチェック、予防など。	地域	声かけ、見守り、支援。	企業	ストレスチェック、相談。
外国人が働ける場の創出	会社側に外国人正社員を何人以上入れると補助金。	企業	企業はいっぱい入れるように人材を作る。		
	支援人材に対する処遇を引き上げ、特徴的に募集する。仕事としてある程度成り立つ程度の処遇が必要。				
外国人のサービス	店員用の外国人への対応(挨拶など)のパンフレット。				
行政の情報発信					
行政の取り組みの情報提供	外国人に必要な振る舞いのマニュアルを作る。				
	外国人県民のために税金を投資する理由。県の発展へのメリットを広報する。(日本人県民に外国人県民を理解する動機付けを行う)				
行政の取り組みの情報提供、異文化の理解	情報提供の仕組みづくり。文化の違い事例をまとめて発信する。漫画風。(又は漫画で日本人用、外国人用)	市町	入手しやすいようにして発信、配布する。		
その他					
技能実習生の問題点	技能実習生の実態。職場での扱い。単(一人)での生活状態などを見守る。年に1から2回は職場をみて回る。話を聞く。				
留学生の問題点	留学生の実態とアルバイト先も知っておく。学業とアルバイトに追われて交流やコミュニケーションの場も少なくなるので、参加しやすい場を設ける。				